

令和3年度事業報告

総括

令和3年度の事業

新規事業計画に基づく第2期3カ年計画の3年目として、令和3年度事業計画に沿って公益目的支出計画実施事業（継続事業）及びその他事業（実験動物飼育管理等事業、研究支援等事業、検査事業、普及啓発事業）を行った。

さらにその他の事業として、実習用実験室・研修室貸出事業を行った。なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い講習会等を中止した。

1. 公益目的支出計画実施事業（継続事業）（定款の第4条第1項第3号業務）

1-1 霊長類関係の研究者及び技術者を対象にした研究助成事業

令和2年に旧研究助成規程を改訂し創設した「NHP-A(Nonhuman Primates-Associates)研究助成規程」に基づいて公募をして選考委員会で選考された方に助成を行った。

第2回（令和3年度）NHP-A 研究助成 応募件数： 11件

表1 採択課題

	採択課題	研究責任者
1	性成熟期に糖化ストレスを亢進させた統合失調症モデルザルの作出と病理解明	石田 裕昭（公益財団法人東京都医学総合研究所 精神行動医学研究分野・統合失調症プロジェクト）
2	大学等の動物実験施設におけるマカク属サルへのBウイルス感染の実態調査（令和3年度）	吉松 組子（国立大学法人動物実験施設協議会）

選考委員：寺尾恵治（委員長）、片貝祐子、鯉江洋、清水慶子、藤本浩二、八神健一

表2 近年の助成件数

	令和2年度	令和3年度	
応募件数	5	11	
助成件数	2	2	

1-2 技術者の育成及び知識の普及

予防衛生を中心とする公衆衛生の向上と科学技術の発展に寄与することを目的として、次の事業を行った。

- ①「第25回予防衛生協会セミナー」を、霊長類関係の飼育管理業務や各種研究に従事する技術者及び研究者等を対象に開催した。

ア) 日 時 令和3年11月13日（土）

イ) 場 所 予防衛生協会（フルウェブ方式）

ウ) テーマ 実験用霊長類の栄養管理とエンリッチメントの両立

エ) 参加者 80名

2. その他事業（定款の第4条第1項第1, 2, 4号業務）

2-1 国立研究機関及び民間企業の実験動物飼育管理業務

2-2 国立研究機関及び民間企業の研究支援業務

2-3 労働者派遣事業（動物飼育管理、研究支援、研究補助）

2-4 検査事業

医学研究等に使用するサル及びヒトの安全を確保のため、前年度から継続して以下の事業を実施した。

- ① 国内外のサル飼育施設から依頼を受けたサル等由来材料についてウイルス抗体検査や細菌検査等を実施した。令和3年度は、前年度より535件増加した。

表3 検査件数変遷

	平成31年度	令和2年度	令和3年度
検査受託件数	17,024	14,492	15,027
(対前年度増減数)	(-4,171)	(-2,532)	(535)

2-5 技術者の育成及び知識の普及

大学・研究機関・関連団体等に、獣医師や技術者を派遣し研修の実施や飼育技術者資格認定試験等への協力等を通じて、技術者の育成及び知識の普及を行った。また、平成29年度より開始した予防衛生協会講習会は打ち切りとなった。

- ① 公益社団法人日本実験動物協会への協力
 - (1) モニタリング技術委員会
 - (2) 「実験動物の技術と応用 入門編および実践編 増補改訂版」の編集
- ② 特定非営利活動法人バイオメディカルサイエンス研究会への協力
 - (1) バイオセーフティ技術講習会（病原体等安全管理技術者養成講座）
- ③ 大学共同利用機関法人自然科学研究機構生理学研究所への協力
 - (1) 「ニホンザル」バイオリソース母群検討委員会
- ④ 霊長類関係の研究者や繁殖育成等業務に携わる技術者からの技術的事項に関するメール等の問い合わせに対し回答した。

2-6 ホームページの運営

- ① 当協会の組織及び業務を紹介した。
- ② 当協会の山内一也会員が解説する生命科学の雑記帳を公開し霊長類の研究者及び繁殖育成等に携わる技術者向けに情報を提供したほか、医学系大学向け教育教材として広く活用された。

2-7 研究成果の発表

医科学研究用霊長類に係る研究を積極的に進め、その成果を学術誌や各種学会大会等において発表した。